はなさかさかす

社会福祉法人報徳会
広報紙（季刊）
令和４年夏号
発行責任者
理事長　内田善久

敬老の日にお花のプレゼント

敬老の日に施設長が各ユニットを訪問して、お花のプレゼントを差し上げました。おひとりずつへ職員が心を込めて作ったカードを差し上げて、みんなで敬老の日をお祝いしました。

四世代いっしょ はなさか家族

さくら保育室を利用している澤田愛依ちゃん(1)は、お母さんがはなさかの看護職員さん、おばあちゃんは2階の介護職員さんで、大おばあちゃんはデイサービスをご利用されています。お父さんは施設メンテナンスの業者さん。「はなさか家族」のご一家です。

《今日より明日…》無縁坂「ため息つけばそれで済む」

社会福祉法人報徳会理事　岩壁 清吉

《銃を捨て まいてください ヒマワリを》 笹野節子（八七）

戦後七十七年の今年。八月十五日の東京新聞の一面を飾る向日葵の写真とこの「平和の俳句」。選者のいとうせいこうは「もちろんウクライナに思いを寄せているのだが、世界に当てはまる言葉だ。そして私たちの未来にも」と称え評す。宜なるかな。

取材した佐藤航記者は作者笹野節子さんの〈母の祈り〉を込めた句作の意趣を解説。さだまさしの大ファン。口ずさむ歌詞の一節、

《わたしは君を撃たないけれど
戦車の前に立ち塞がるでしょう
ポケット一杯に花の種を詰めて
大きく両手を拡げて　》『キーウから遠く離れて』

山形に疎開し二人の子供を育てた笹野さんの戦地の我が子を思う母の気持ちと愛唱するさだまさしが紡ぐ「花の種」が、ウクライナのヒマワリと結びあい、母の願いと非戦を希求する句となり届く、と。私ごとこの半世紀、さだまさしが繰り出す詞を食する貘でもある。

掲出した笹野さんの句作にある詞曲の意図を、さだはこう説く。

「あくまでも僕の個人的なため息であるべきだと思っていて。メッセージ性が強ければ強いほどそう。『キーウから遠く離れて』も『困ったな。命は大事だよ、撃つんじゃないよ』って、ため息をつく。その方が伝えたいことが届くんじゃないかな」（『毎日新聞』22・8・21）

あらゆる人たちの〈心の色〉を約六百篇に込めてきた音楽人生。

声高に「反対」と唱えることだけでなく「ため息」と受け止め進む道理。四十七年前「この坂を登る度いつもため息をついた ため息つけばそれで済む 後だけは見ちゃだめと」（『無縁坂』）諭した母の教えに辿り着く。「ため息」は、嘆き停まるだけでなく受け容れ歩み続ける意思だと識らされる。まさに《今日より明日…》の夢へと。「そうゆうことって確かにあると」暦に刻んだ人生に彼岸会、回向。

ユニットの作品紹介

特養２階の臥龍ユニット入り口に展示中の作品です。敬老の日にむけて、職員がご利用者様のご健康をお祈りして制作しました。

虎尾ユニットでは、ご利用者さまのお写真で、秋をイメージした作品を制作しました。外出のレクリエーションが難しいなか、皆さんで公園へピクニックに出掛けているような楽しい作品となりました。

祝ご長寿

飯村 米子様　99歳

白寿を迎えられた飯村米子さま。お花と音楽がお好きで、造花をお作りになられたり、ＣＤで音楽をお聴きになってお過ごしです。

敬老の日記念写真

敬老の日に皆さんのお写真をお撮りしました。

スタッフ紹介

バスネット・サリナさんは報徳会奨学金留学制度で来日して４年目。介護福祉士を目指して介護専門学校で猛勉強中です。放課後は明星ユニットでご利用様と過ごしています。

さくら保育室 楽しいお芋掘り

今年もみんなでお芋掘りをしました。沢山掘って、お母さんにお土産を持って帰りました。

はなさか農園 2022

今年もさつま芋の収穫時期となりました。今年は少し小ぶりですが約２５０kgの収穫見込みです。むらさき芋は餡子にしてデイサービスのパン作りに使います。